

— 合併まちづくり構想 —

相模原市及び津久井郡4町のまちづくり



## 【目次】

序章 相模原市及び津久井郡4町のまちづくりの検討について .....	1
第1章 まちづくりの基本方針 .....	2
1 地域の将来像 .....	2
2 まちづくりの考え方 .....	2
3 将来都市構造 .....	3
第2章 基本目標 .....	9
第3章 合併シンボルプロジェクト .....	11
第4章 将来人口の見通し .....	14
1 総人口 .....	14
2 年齢3区分別人口 .....	14
第5章 地域の概況 .....	16
1 位置と地勢 .....	16
2 沿革 .....	17
3 面積 .....	18
4 人口・世帯 .....	18
5 土地利用 .....	22
6 道路・交通 .....	29
7 産業 .....	32

## 序章 相模原市及び津久井郡4町のまちづくりの検討について

### 合併まちづくり構想とは

相模原市と津久井郡4町の合併協議にあたっては、複数の合併協議会が設置されており、合併後の新市の円滑な運営及び均衡ある発展を図るための基本方針等を定める合併市町村基本計画についても、それぞれ構成する市町の枠組みごとに作成されることになります。しかしながら、それぞれの計画を作成するにあたっては、まず共通となる基本的な理念などについて検討する必要があることから、「合併まちづくり構想」としてまとめるものです。

### 地域の将来像の共有

津久井郡4町は、広域行政組合を組織してごみ処理や消防業務を共同で行うなど、地理的、歴史的に一体感が強く、相模原市と津久井郡4町も図書施設の相互利用や広報紙の相互掲載などの広域的な連携を行っています。こうした経緯を踏まえ、相模原市と津久井郡各町の合併協議に際しては、1市4町が合併した場合を想定して、一体の地域として捉えた上でまちづくりのあり方を考え、相模原・津久井地域合併協議会及び相模原市・藤野町合併協議会でそれぞれ作成する合併市町村基本計画の検討に際し、この地域の将来像として、共通の認識に立った上で、合併後の新市のまちづくりを検討することが必要になります。

また、地域全体の将来像やまちづくりの基本方針について、1市4町で協議し共通の理解を図ることで、2つの合併協議会で作成する合併市町村基本計画の検討に際して、基本的な理念を共有化することができることから、計画相互の整合が図られることとなります。

### 都市地域と水源地域の一体性の確保

1市4町を一体の地域として捉え、地域全体としてのまちづくりのあり方を考えることによって、都市的な相模原地域と水源地域としての豊かな自然を持つ津久井地域の一体性が確保されることとなります。このことにより、県北地域における広域交流拠点として、それぞれの市町が持つ特性や資源をより有効に活用することが可能となり、新たなまちづくりの可能性が高まるものと考えられます。



## 第1章 まちづくりの基本方針

### 1 地域の将来像

本地域は首都東京から約30～60kmに位置することから、東部を中心に急速な都市化が進み、特に相模原地域は首都圏における広域的な役割を担う拠点都市として発展してきました。一方、津久井地域は、相模湖、奥相模湖、津久井湖、宮ヶ瀬湖などにより神奈川県重要な水源地域となっており、丹沢大山国定公園や県立自然公園に指定されるなど豊かな自然環境を有しています。今後は、さがみ縦貫道路や津久井広域道路の整備により、広域的な交流拠点としての更なる発展の可能性が高まっていることから、東部においては様々な交流・活動の場となる中心市街地の活性化を図るとともに新しい拠点づくりに努め、西部においては地域特性を生かした観光や芸術などを通じてやすらぎと憩いの場を提供していくことが必要です。

このため、広域交流拠点としての機能の充実を図りつつ、水源地域を保全・活用し、豊かな自然環境と共生した都市基盤の整備や産業の振興を推進することにより、自然と産業が共存する活力ある地域として更に自立した都市づくりを進めるとともに、住民一人ひとりが主体となり、将来にわたって安心して質の高い市民生活を実現できるまちづくりを目指します。

『 自然と産業が調和し 人と人がふれあう  
活力ある自立分権都市 相模原 』

～ 森が育む水の力 水がそだてるまちの力  
まちにいきづく人の力 地域の力と魅力を活かしたまちづくり ～

### 2 まちづくりの考え方

地方分権時代にふさわしい新市を創っていくためには、合併による行政区域の拡大に伴い、地域に根ざしたきめ細かなまちづくりを進めることが今まで以上に必要になりますが、都市を経営するという視点に立って、協働と分権によるまちづくりを進めるとともに、効率的・効果的な行財政運営を推進することが不可欠です。

このため、市民一人ひとりが主体的にまちづくりに関わることによって、地域コミュニティやまちづくりを担う多様な主体の活性化を図り、都市内分権を進めることが重要です。また、市政の計画・実施・評価のすべての段階における市民参加を促進し、市民のニーズが的確に反映された、市民の満足度を高める施策の展開が求められます。さらに、民間活力の積極的な導入やIT化の推進、事務事業や組織体制の見直しなど、最少

の経費で最大効果のサービスを提供していく必要があります。

### (1) 協働と分権

市民一人ひとりが支え育て合う自立した社会を創り、誰もが住みよい地域社会の形成を目指すため、協働と分権の視点に立ったまちづくりを進めます。このため、広報・広聴活動の充実に努め、男女共同参画の理念を踏まえて、市民の市政への参画機会を拡充するとともに、都市内分権を推進します。

多様な主体の協働の推進

市民の市政への参画機会の拡充

都市内分権による住民自治の充実

### (2) 効率的な行財政運営

市民一人ひとりが納得しうる質の高い市政運営を行うために、効率的・効果的な行財政運営、職員の資質の向上、情報公開の推進、近隣市町村との連携などに努めます。

持続的な都市経営を可能とする財政基盤の確立

民間活力やITを活用した最少経費で最大効果のサービス提供

既存事務事業の見直しと新たな行政ニーズに対応した取組の推進

適正な職員定数の管理

情報公開の推進

広域連携の推進

## 3 将来都市構造

各市町の持つ地域特性を活かし、今まで進められてきたまちづくりの経緯を踏まえ、地域における様々な活動や交流の場としての拠点の形成や、拠点間の連携を図るネットワークの形成を進めることとします。また、このことにより、より一層活力ある地域として多核・多拠点型の都市づくりを目指します。

### (1) 中心市街地としての都市の核

橋本、相模原、相模大野の各駅周辺地域については、都市の核であり、中心市街地として商業、業務、文化などの都市機能の集積が図られています。今後とも、相互の連携を図りながら交流・都市活動の場となる各拠点とも連携し、中枢業務やコンベンション機能などの高次都市機能の集積をより一層進め、魅力の向上を進めることとします。

## (2) 多様な拠点

多種多様な拠点の整備を進めるとともに、それぞれの拠点の有機的なネットワーク化を図り、各拠点の連携、相互補完による地域の一体性の強化を目指します。

### 新たなまちづくりの拠点

麻溝台・新磯野地区や当麻地区では、環境に配慮しながら、産業、文化、生活等が融合した、時代をリードする新しい拠点づくりを進めていくこととします。

### 新たな産業の拠点

大島、小倉地区は、地域の中央を縦断するさがみ縦貫道路と、東西の軸となる津久井広域道路の結節点で、(仮称)城山インターチェンジの整備が進められることから、その交通利便性を活かした拠点として周辺土地利用の活性化を進めるものとします。

また、串川地区や内郷地区では、津久井広域道路を軸とする、豊かな自然環境と調和した新たな産業の拠点の整備を目指します。

### 観光交流拠点

相模湖周辺は、中央自動車道やJR中央本線などの広域的な交通の利便性を活かして、周辺の拠点との連携を通して観光資源としてのポテンシャルを高め、観光交流拠点としての整備を目指します。

### 自然ふれあい拠点

宮ヶ瀬湖、奥相模湖の周辺や市街地に残された貴重な平地林である木もれびの森は、貴重な自然を保全するとともに、身近に豊かな自然とふれあえる場として整備・活用を進めます。

### 芸術と憩いの拠点

名倉、牧野地区は森と湖からのメッセージを発信する拠点として、ふるさと芸術村としての空間を創出し、文化と芸術の香りが漂い感じる憩いの場を提供します。

## (3) 交流を支える都市軸とゾーン

地域の一体性の強化と均衡ある発展のため、都市構造上の骨格となる都市軸の形成を目指します。

また、都市的な土地利用の進む相模原地域は「くらしとにぎわいのゾーン」、水源地域を抱え豊かな自然環境を持つ津久井地域は「うるおいといこいのゾーン」として位置付け、それぞれの特性を生かした多核・多拠点型の都市構造の形成を目指します。

### 交通軸

#### ア 広域交通網の充実

広域化する市民生活、経済活動の活性化などの役割を担う重要な交通網として、さがみ縦貫道路や国道などの整備促進を図るとともに、リニア中央新幹線の駅の誘致や小田急多摩線、京王相模原線の延伸の促進などにより、新たな広域交通網

の充実を目指します。

## イ 市民生活に密着した交通網の充実

### 幹線道路網の充実

津久井広域道路は、本地域の一体化を図る骨格的な幹線道路であり、東西の地域連携強化のため整備を促進します。また、都市計画道路の整備や（仮称）下九沢大島線の具体化を進め、幹線道路のネットワーク化を図ります。

### 公共交通網の充実

各拠点間の連絡強化を図るとともに、高齢化や日常生活圏の拡大に伴う多様な交通ニーズに対応した公共交通網の確立を目指すため、バスネットワークを強化するほか、新しい交通システムの導入に向けた検討を進めます。

### みずの軸

道志川や相模川の流域では、貴重な水辺空間を保全するとともに、魅力ある憩いの場としての整備を図ります。

### みどりの軸

横山丘陵や相模川沿いの斜面緑地などは、市街地の中に残された貴重なみどりとして、良好な都市環境の形成を図り、市民生活にうるおいを与える場として保全するとともに活用を図ります。

### 「水源の森」ゾーン

南西部に広がる丹沢大山国定公園は豊かな自然環境に恵まれ、神奈川県重要な水源地域となっています。森林の持つ公益的な機能を保全しつつ適切な利用を進め、総合的な環境の向上を図るものとします。

### みずとみどりのレクリエーションゾーン

道志川や相模川の流域、城山湖や津久井湖、相模湖の周辺、宮ヶ瀬湖から城山にかけての地域、県立陣馬相模湖自然公園周辺などでは、みずやみどりに親しみふれあえる場所として、自然環境に配慮した整備を進めます。

# 将来都市構造図





## 第2章 基本目標

将来像を実現するため、分野別にまちづくりの基本目標を設定します。

### 基本目標

交通、都市基盤

### 人、自然、産業、文化...新しい都市の 交流と発展を支える 質の高い交通・都市基盤をめざす

都市の健全な発展と市民生活の利便性や快適性の向上、そして人、自然、産業、文化など様々な交流の架け橋という観点から、骨格となる交通網の強化と質の高い都市基盤の整備が重要となります。

このため、さがみ縦貫道路、津久井広域道路等の早期整備を図るとともに、鉄道輸送・バスネットワークの強化、新しい交通システムの導入等に取り組むことにより、高齢化や日常生活圏の拡大に伴う多様な交通ニーズに対応した公共交通網の確立を目指します。さらに、増え続ける自動車交通などを円滑に処理していくため、TDM（交通需要マネジメント）施策の推進に取り組み、交通渋滞の解消に努めます。

また、新市の核としての中心市街地や多様な拠点の形成に向けた基盤整備を図るとともに、水源地域の保全と生活環境の向上のための上下水道の整備や、高度情報化に対応する情報基盤の整備、公園等市民の憩いの場となる空間の整備、美しい都市景観の形成等を進め、快適で魅力ある居住環境の創造を目指します。

### 基本目標

自然・環境

### 自然の豊かさを日常的に感じるまちをめざす

新市の西部は広大な森林や清流、湖などみどり豊かな自然環境に恵まれており、神奈川県重要な水源地域となっています。また、自然と都市の融合や自然と人との共生をまちづくりの基本に、日常的に暮らしの中で自然を身近に感じられるようにすることにより、人々の自然に対する意識をより深いものとするのが求められています。

このため、水源涵養、治水、保健休養等の森林の有する公益的な機能に配慮した保全方策を推進するとともに、自然環境に対する意識を啓発し、河川、湖の水質の向上を図るなど、水源地域の総合的な環境の向上を目指します。

また、市街地周辺においても里山、谷戸が残っているほか、相模川などの水辺や斜面林がみどりの軸を形成しており、市街地に残された貴重な平地林である木もれびの森や都市公園、緑地としての農地などと良好なみどりを形成することにより、都市内部でも自然を感じられるうるおいと風格のあるまちづくりを目指します。

さらに、限られた資源を大切にす循環型社会の形成を目指すとともに、廃棄物の適正処理を目的とした施設整備を行うなど、環境に配慮した取組みを進めます。

## 基本目標

産業、観光、土地利用

### 地域経済を支えるために生活・自然環境と調和し、 地域特性を活かした産業創生をめざす

新市の活力ある発展とゆとりある豊かな市民生活の実現には、多様な産業の振興と計画的な土地利用の推進が重要となります。

このため、新たな産業の誘致や大学・研究機関、インキュベーション施設と連携した工業振興に取り組むとともに、生活の核となる個性的・魅力的な商店街の形成を図ります。

新市の各地域の歴史・文化などをはじめとする特性を観光資源として捉え、積極的な情報発信に努め、観光の振興を図ります。特に、水源地域では、水辺環境や貴重な動植物が生息する豊かな自然環境を保全しながら農林業の振興を図るとともに、文化・芸術などの地域特性を活かした観光振興などにより、都市住民が自然とふれあう場を提供します。

また、さがみ縦貫道路や津久井広域道路の整備を踏まえた計画的な土地利用を進めるとともに、市街地の高度利用や農業・森林地域での適切な土地利用など、地域の状況に応じた土地利用を図り、良好な居住環境の保全及び創造と秩序ある都市の発展を目指します。

## 基本目標

教育・文化、保健・医療・福祉、安全・安心

### 心の豊かさを育み、安心して生き活きとした 市民生活の実現をめざす

生き活きとした安全・安心な市民生活を実現するためには、心豊かな人づくりや人にやさしいユニバーサルなまちづくりが重要となります。

このため、教育環境を充実し、地域固有の自然や歴史、文化などの資源を活用した体験学習や郷土学習を通じてふるさと意識の醸成に努め、人間性豊かな教育の実現を目指します。同時に、市民の自己実現の場としての文化、芸術活動の促進などにより、生きがいや心の豊かさが実感できるとともに、医療機関や福祉施設と家庭、地域とが連携した保健・医療・福祉体制を確立することにより、だれもが安心して生活できる地域社会の形成を目指します。

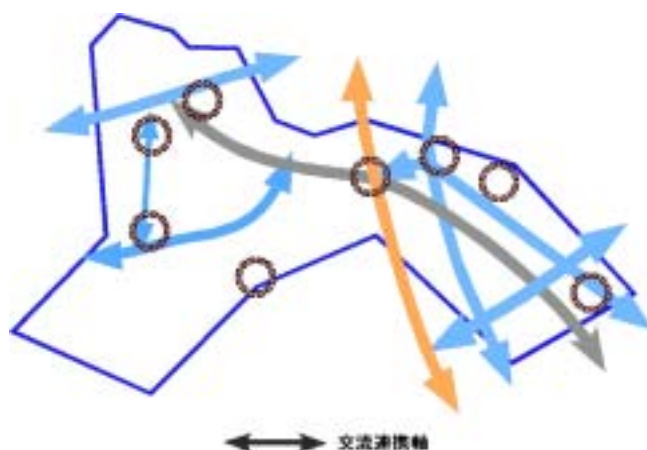
また、市街地から山間部まで、その地域特性に応じた防災・防犯対策を進め、市民が安全に安心して生活できるまちづくりを目指します。

## 第3章 合併シンボルプロジェクト

新市の一体性を確保するため、シンボルとなる次のプロジェクトを推進する必要があります。

### 1 地域連結夢プロジェクト

新市の生活や経済の活性化を支え、広域的な交流や情報発信を進めるためのインフラとして、幹線道路の早期実現を図るほか、鉄道網の充実に向けて津久井地域への鉄道の延伸を促進し、新しい交通システムの導入を検討します。これにより、交通の利便性、快適性の向上を推進し、新市の一体化を図ります。



#### 【主な事業】

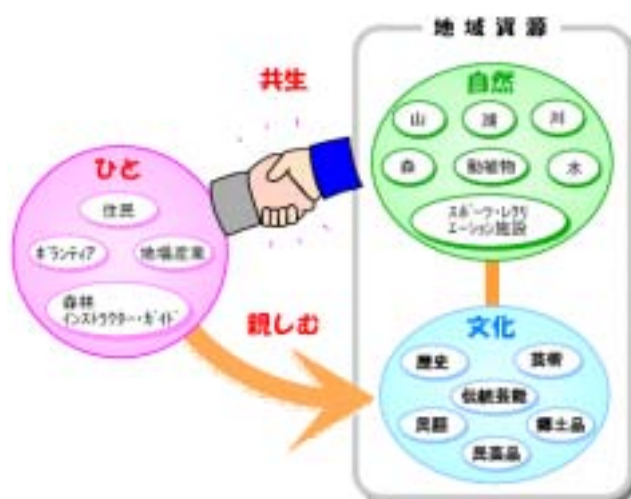
骨格幹線道路の整備（さがみ縦貫道路、津久井広域道路 など）

バスネットワークの充実

新しい交通システムの導入検討

### 2 市民のオアシスプロジェクト

水源地域の山、川、湖などの優れた自然や地域固有の歴史、風土を守るとともに、人と自然が共生し文化、芸術などと親しめる環境を活用し市民のオアシスとなる空間を創出します。また、都市部においても、市民の憩いの場となる魅力ある快適空間の創出に取り組みます。



#### 【主な事業】

自然に親しむ空間整備事業

（森林ミュージアム・オートキャンプ

場・ハイキングコースの整備、グリーンツーリズムの促進 など）

伝統文化の保存活用（エコミュージアム、フィールド・ミュージアム など）

### 3 まち+水源地 = 産業創生プロジェクト

新市は、まち(都市部)と水源や森林など豊かな自然を併せ持つことから、その特色を生かして観光や産業の振興を図るため、多様なイベントを有機的に連携させ、観光拠点の整備を進めるとともに、特産品を生かした地場産業の振興を図ります。

また、豊かな自然環境や、交通の利便性など首都圏における立地特性等を活かして、骨格幹線道路の整備に伴う周辺土地利用の活性化を図り、企業誘致を進めるなど、産業創生に取り組みます。



【主な事業】

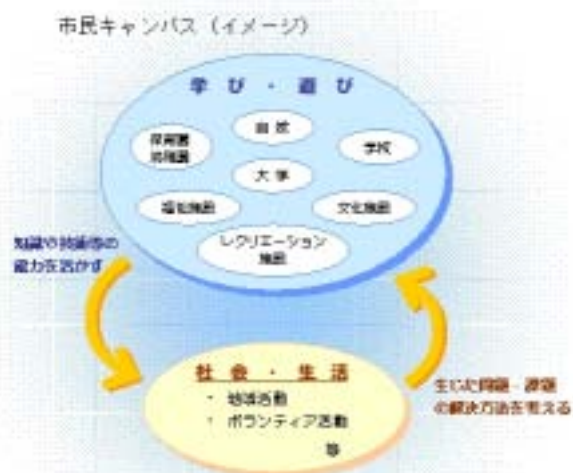
- 新たな産業の創出事業（企業立地基盤の整備と誘致、産学連携 など）
- 産業と観光が連携した魅力ある観光地づくり（観光拠点整備推進事業 など）

### 4 市民キャンパスプロジェクト

豊かな人間性を育む環境づくりを進めます。子どもから大人まで、あらゆる人が生涯にわたって学習することができる機会を提供することにより、生涯現役時代にふさわしい“生涯学習都市”を目指します。

【主な事業】

- 生涯学習キャンパスの展開  
（(仮称)市民・大学交流センターの整備 など）
- 生涯学習の新しいネットワークの構築  
（図書館、博物館、公民館、大学などのネットワーク化）



## 5 安全・安心ネットワークプロジェクト

全ての市民が豊かに暮らせるよう、安全・安心なまちづくりを進めます。このため、保健、医療、福祉の充実を図ります。また、地域コミュニティの強化を図り、住民自らが地域を守るシステムを形成します。

### 【主な事業】

総合的な保健・医療・福祉施策の推進  
 ( (仮称)北地区保健福祉センターの整備、特別養護老人ホーム等の整備促進 など )

防災、消防対策の強化

( 地域防災活動の支援、消防施設の整備、防災無線整備 など )

安全・安心なまちづくりの推進

( 安全・安心まちづくり推進体制の構築、地域防犯活動の支援 など )

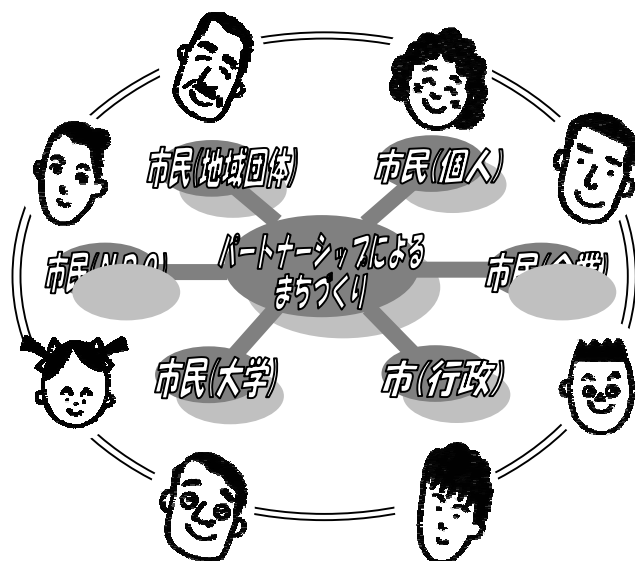


## 6 パートナーシップ・都市内分権プロジェクト

都市内分権（分権型社会）を実現し、市民や民間団体、企業など地域社会を構成する様々な主体の協働による、自主的、自律的なまちづくりを目指します。

### 【主な事業】

市民主体の協働によるまちづくりの推進  
 ( さがみはらパートナーシップ推進指針・都市内分権の推進、コミュニティ活動への支援 など )



## 第4章 将来人口の見通し

### 1 総人口

平成16年1月1日現在の1市4町の人口は、合わせて694,511人でした。今後も緩やかな人口増が続き、平成27年には約71万8千人になるものと推計されます。

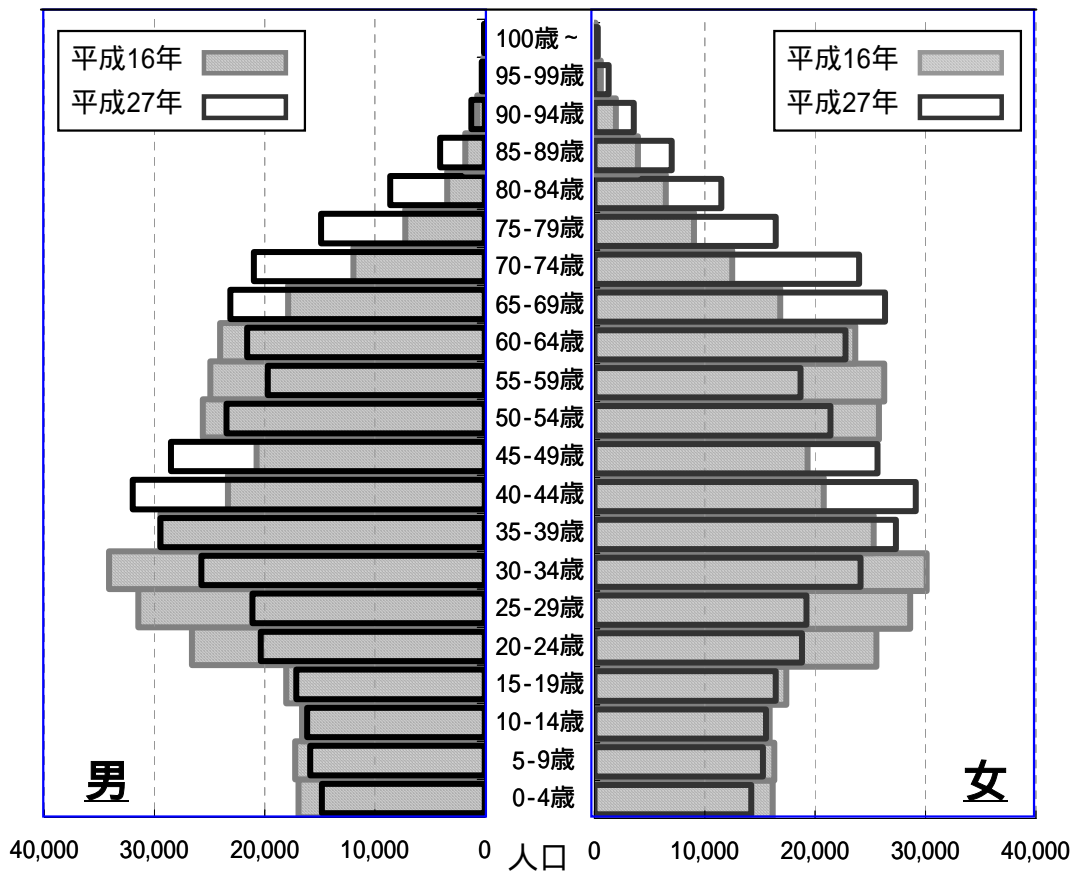
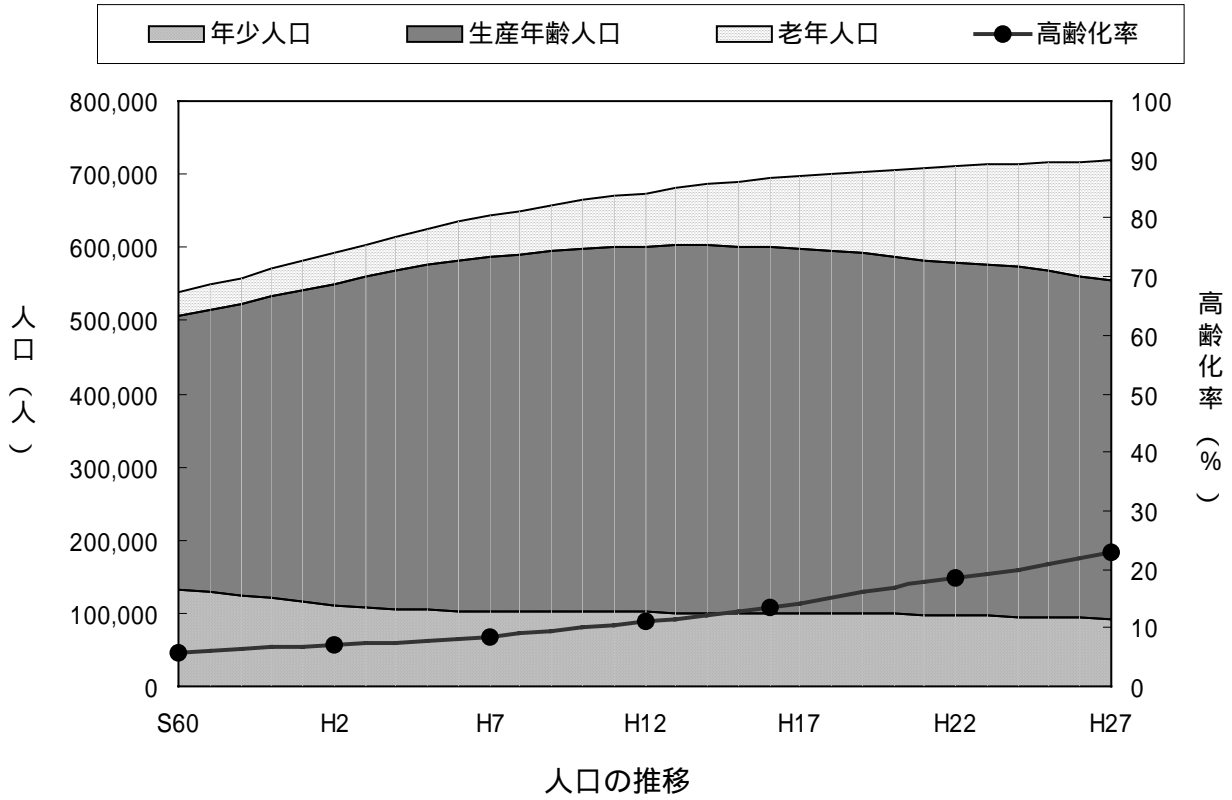
### 2 年齢3区分別人口

年齢階層別の将来人口の見通しを見ると、0歳から14歳までの年少人口、15歳から64歳までの生産年齢人口はともに減少し、65歳以上の老年人口が大幅に増加するものと予測され、高齢社会の進行が見込まれています。

将来人口の推計：単位（人）

区 分	平成16年 (2004年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)	区 分	平成16年 (2004年)	平成22年 (2010年)	平成27年 (2015年)		
地域合計	694,511	711,379	717,985	相模原市	620,551	640,559	650,366		
	年少人口 (14.3%)	99,061	96,883	91,840	年少人口	89,203	88,332	84,183	
		生産年齢人口 (72.1%)	501,005	481,777	462,551	生産年齢人口	449,162	435,659	422,152
			老年人口 (13.6%)	94,395	132,719	163,594	老年人口	82,165	116,568
	城山町	23,238	23,582	23,519	城山町	23,238	23,582	23,519	
		年少人口	3,195	3,264	3,179	年少人口	3,195	3,264	3,179
		生産年齢人口	16,868	15,583	14,223	生産年齢人口	16,868	15,583	14,223
		老年人口	3,175	4,735	6,117	老年人口	3,175	4,735	6,117
		津久井町	29,418	27,755	26,240	津久井町	29,418	27,755	26,240
			年少人口	4,101	3,498	3,064	年少人口	4,101	3,498
生産年齢人口			20,603	17,901	15,393	生産年齢人口	20,603	17,901	15,393
老年人口		4,700	6,356	7,783	老年人口	4,700	6,356	7,783	
相模湖町		10,397	9,716	9,019	相模湖町	10,397	9,716	9,019	
		年少人口	1,220	838	647	年少人口	1,220	838	647
	生産年齢人口	7,228	6,430	5,519	生産年齢人口	7,228	6,430	5,519	
老年人口	1,947	2,448	2,853	老年人口	1,947	2,448	2,853		
藤野町	10,907	9,767	8,841	藤野町	10,907	9,767	8,841		
	年少人口	1,342	951	767	年少人口	1,342	951	767	
	生産年齢人口	7,144	6,204	5,264	生産年齢人口	7,144	6,204	5,264	
老年人口	2,408	2,612	2,810	老年人口	2,408	2,612	2,810		

(注)平成22年、27年はコーホート要因法により推計(1月1日現在)  
平成16年人口は年齢不詳を含むため年齢別人口の合計と総人口は一致しない。



5歳階級別人口ピラミッドの比較

## 第5章 地域の概況

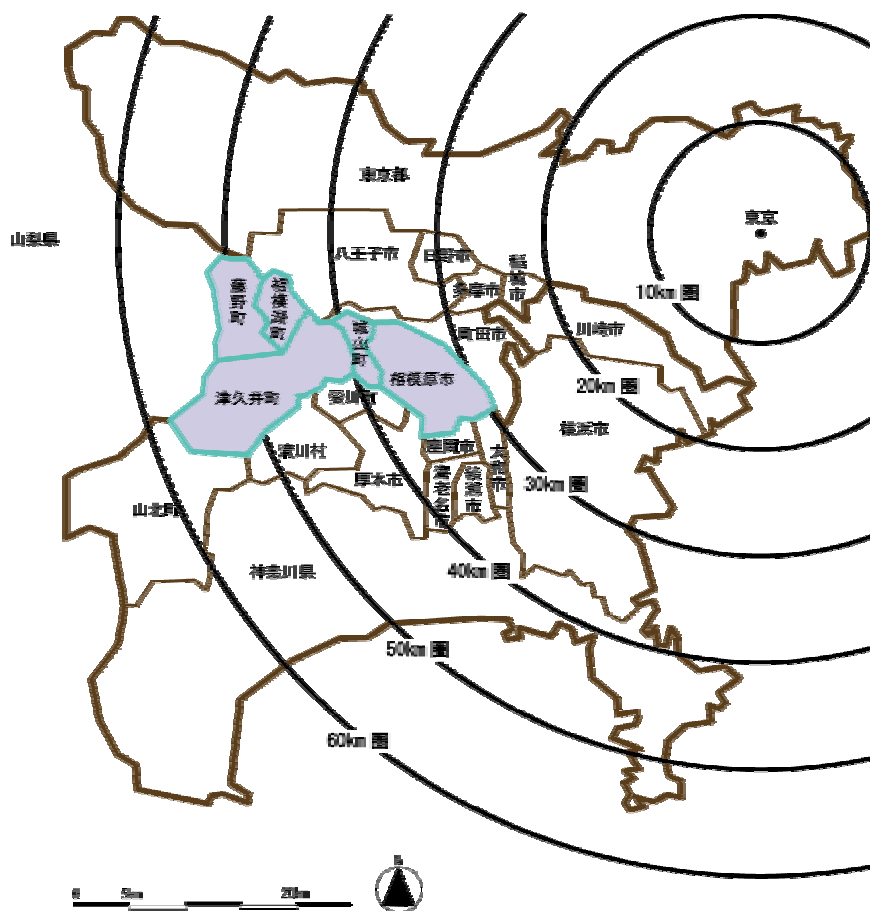
### 1 位置と地勢

本地域は神奈川県北西部、東京都心から概ね 30～60km に位置しており、北部は東京都、西部は山梨県と接しています。

地域の東部にあたる相模原地域は、相模川に沿った3つのなだらかな階段状の河岸段丘からなり、これらの段丘の間には斜面緑地が連なって、市街地の貴重な緑地としてみどりの骨格を形成しており、相模原台地の中段では、公共交通網の充実により、利便性が高い地域として密度の高い土地利用が進んでいます。

地域の西部にあたる津久井地域は、県民の水がめである相模湖、津久井湖、宮ヶ瀬湖を抱えており、その周囲や相模川、道志川、串川の流域に広がる緩やかな丘陵地には、自然と共生するみどり豊かな街並みが形成されています。また、東京都、山梨県と接する地域の北西部は比較的急峻な山々が連なり、南西部は丹沢大山国定公園に指定されている森林地帯が、1,500mを超える山々となって貴重な自然環境を形成しています。

位置図





## 2 沿革

各市町の現在にいたるまでの沿革は、明治 22 年の市制町村制施行に伴う「明治の大合併」に始まり、昭和 28 年の町村合併促進法施行、昭和 31 年の新市町村建設促進法施行に伴う「昭和の大合併」を経て、以下のとおりとなっています。

## 沿 革

年 月	沿 革
明治 22 年 4 月	座間村、新磯村、麻溝村、田名村、溝村、大沢村、相原村、大野村、川尻村、湘南村、三沢村、中野村、太井村、又野村、三ヶ木村、青山村、長竹村、根小屋村、鳥屋村、青野原村、青根村、小原町、内郷村、千木良村、与瀬駅、吉野駅、小淵村、沢井村、日連村、名倉村、牧野村、佐野川村が誕生
明治 42 年 5 月	青山村、長竹村、根小屋村の 3 村が合併し、串川村が誕生
大正 2 年 4 月	与瀬駅が町制を施行し、与瀬町が誕生。吉野駅が町制を施行し、吉野町が誕生
大正 14 年 1 月	中野村が町制を施行し、中野町が誕生
大正 14 年 7 月	中野町、太井村、又野村、三ヶ木村の 1 町 3 村が合併し、中野町が誕生
大正 15 年 1 月	溝村が町制を施行し、上溝町が誕生
昭和 12 年 12 月	座間村が町制を施行し、座間町が誕生
昭和 16 年 4 月	2 町 6 村（座間町、上溝町、新磯村、麻溝村、田名村、大沢村、相原村、大野村）が合併し、相模原町が誕生
昭和 23 年 9 月	相模原町から座間町が分立
昭和 29 年 7 月	吉野町、小淵村、沢井村が合併し、吉野町が誕生
昭和 29 年 11 月	相模原町が市制を施行し、相模原市が誕生
昭和 30 年 1 月	2 町 2 村（小原町、与瀬町、内郷村、千木良村）が合併し、相模湖町が誕生
昭和 30 年 4 月	3 村（川尻村、湘南村、三沢村の一部）が合併し、町制が施行され、城山町が誕生 1 町 5 村（中野町、串川村、鳥屋村、青野原村、青根村、三沢村の一部）が合併し、津久井町が誕生
昭和 30 年 7 月	1 町 4 村（吉野町、日連村、名倉村、牧野村、佐野川村）が合併し、藤野町が誕生
平成 15 年 4 月	相模原市が中核市に指定

資料：相模原市史、城山町史、津久井町史、相模湖町史、藤野町史

### 3 面積

本地域の面積は328.84km<sup>2</sup>で、神奈川県の大面積(2,415.68km<sup>2</sup>)に占める割合は約13.6%となります。

面積

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合 計	神奈川県
面 積(km <sup>2</sup> )	90.40	19.90	122.04	31.59	64.91	328.84	2,415.68
面 積 比 (%)	27.5	6.1	37.1	9.6	19.7	100.0	-

資料：県勢要覧〔平成15年度版〕神奈川県企画部統計課  
(相模原市の面積は行政界変更に伴い修正しています)

### 4 人口・世帯

#### (1) 人口動向

かつての急激な人口増加は見られなくなっています。特に津久井郡4町においては、すでに城山町を除き総人口が減少に転じています。

人口の動向

区 分	国勢調査人口				
	昭和 55 年	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年
相模原市	439,300	482,778	531,542	570,597	605,561
伸び率	-	9.9%	10.1%	7.3%	6.1%
城山町	15,732	19,248	21,535	22,732	23,036
伸び率	-	22.3%	11.9%	5.6%	1.3%
津久井町	20,746	24,460	28,038	30,448	30,345
伸び率	-	17.9%	14.6%	8.6%	-0.3%
相模湖町	9,007	9,845	10,592	11,263	10,896
伸び率	-	9.3%	7.6%	6.3%	-3.3%
藤野町	9,470	10,186	10,729	11,473	11,312
伸び率	-	7.6%	5.3%	6.9%	-1.4%
合 計	494,255	546,517	602,436	646,513	681,150
伸び率	-	10.6%	10.2%	7.3%	5.4%

資料：国勢調査

## (2) 世帯数の推移

世帯数は人口と同様に増加してきました。増加率は低下傾向にありますが、核家族化の進行などにより、人口ほどの低下傾向ではありません。

世帯数の推移

区 分	国勢調査世帯(世帯)				
	昭和 55 年	昭和 60 年	平成 2 年	平成 7 年	平成 12 年
相模原市	132,111	156,236	187,413	212,209	237,936
伸び率	-	18.3%	20.0%	13.2%	12.1%
城山町	4,172	5,327	6,355	7,208	7,663
伸び率	-	27.7%	19.3%	13.4%	6.3%
津久井町	5,373	6,516	7,813	9,046	9,492
伸び率	-	21.3%	19.9%	15.8%	4.9%
相模湖町	2,422	2,836	3,346	3,793	3,712
伸び率	-	17.1%	18.0%	13.4%	-2.1%
藤野町	2,293	2,603	2,886	3,300	3,392
伸び率	-	13.5%	10.9%	14.3%	2.8%
合 計	146,371	173,518	207,813	235,556	262,195
伸び率	-	18.5%	19.8%	13.3%	11.3%

資料：国勢調査

## (3) 年齢別人口構成

年少人口、生産年齢人口は減少傾向にあり、高齢者の人口は増加傾向にあります。

年齢別人口構成

区 分	平成 12 年 年齢別人口(人)			平成 12 年 年齢別人口割合		
	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上	0～14 歳	15～64 歳	65 歳以上
相模原市	89,531	448,835	67,174	14.8%	74.1%	11.1%
城山町	3,193	17,160	2,683	13.9%	74.5%	11.6%
津久井町	4,669	21,512	4,150	15.4%	70.9%	13.7%
相模湖町	1,513	7,631	1,750	13.9%	70.0%	16.1%
藤野町	1,586	7,456	2,257	14.0%	66.0%	20.0%
合 計	100,492	502,594	78,014	14.8%	73.8%	11.4%

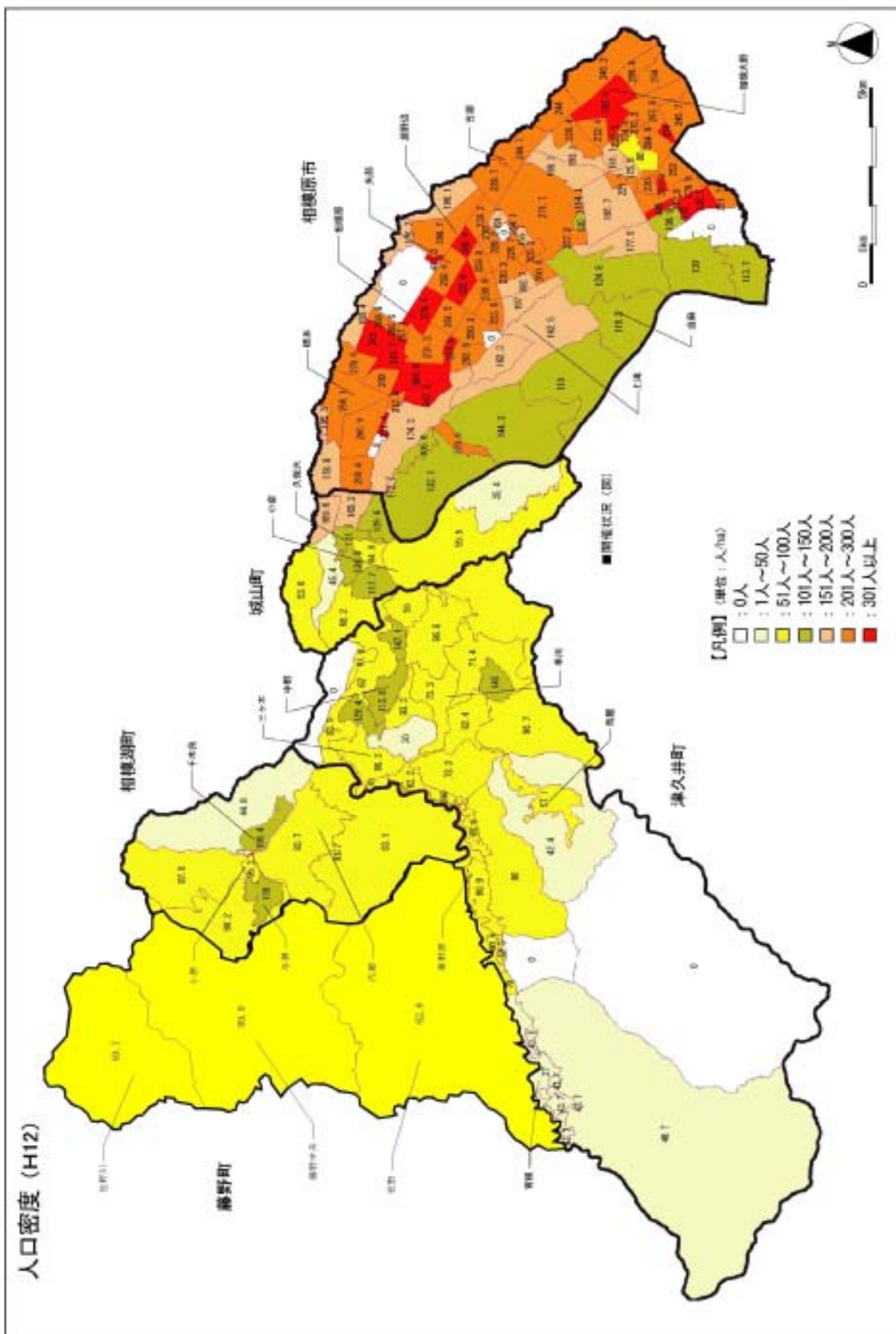
(年齢不詳は含めていない)

資料：国勢調査

(4) 人口密度

都市計画基礎調査における地区(中ゾーン)別の人口密度を見ると、都市化の進む相模原地域で高くなっていることが分かります。特に、JR横浜線や小田急線沿線の各駅を中心に人口が集中し、人口密度が高くなっています。

一方、水源地域でもある津久井地域では、市街化が抑制され、人口密度は低くなっていることが分かります。



## 5 土地利用

## (1) 土地利用の状況

## 都市計画決定の状況

本地域には、相模原都市計画区域、津久井都市計画区域及び相模湖都市計画区域の3つの都市計画区域があります。相模原都市計画区域は、無秩序な市街化を防止し計画的な市街化を図る「市街化区域」と、市街化を抑制する「市街化調整区域」に区分されていますが、津久井都市計画区域と相模湖都市計画区域は区分されていません。

一方、本地域における建物の用途や規模を定める「用途地域」の指定状況は、住居系 77.1%、商業系 6.7%、工業系 16.2%となっています。

都市計画決定状況

区 分	相模原都市計画区域		津久井都市 計画区域	相模湖都市計画区域		合 計	神奈川県
	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町		
都市計画区域の割合	全域	全域	一部 (41.7%)	全域	一部 (37.4%)		
線引き・非線引きの別	線引き	線引き	非線引き	非線引き	非線引き		
都市計画区域	9,040.0	1,990.0	5,090.0	3,159.0	2,428.0	21,707.0	199,652.0
区域区分	9,040.0	1,990.0	0.0	0.0	0.0	11,030.0 (50.8%)	172,739.0 (86.5%)
市街化区域	6,470.0 (71.6%)	270.0 (13.6%)	0.0	0.0	0.0	6,740.0 (31.0%)	93,171.0 (46.7%)
市街化調整区域	2,570.0 (28.4%)	1,720.0 (86.4%)	0.0	0.0	0.0	4,290.0 (19.8%)	79,568.0 (39.9%)
非線引き	0.0	0.0	5,090.0	3,159.0	2,428.0	10,677.0 (49.2%)	26,913.0 (13.5%)
用途地域	6,253.0 (69.2%)	269.7 (13.6%)	295.0 (5.8%)	223.1 (7.1%)	215.0 (8.9%)	7,255.8 (33.4%)	95,784.4 (48.0%)

(カッコ内の数字は県市町ごとの都市計画区域に対する割合)

資料：神奈川県都市整備統計年報 2004

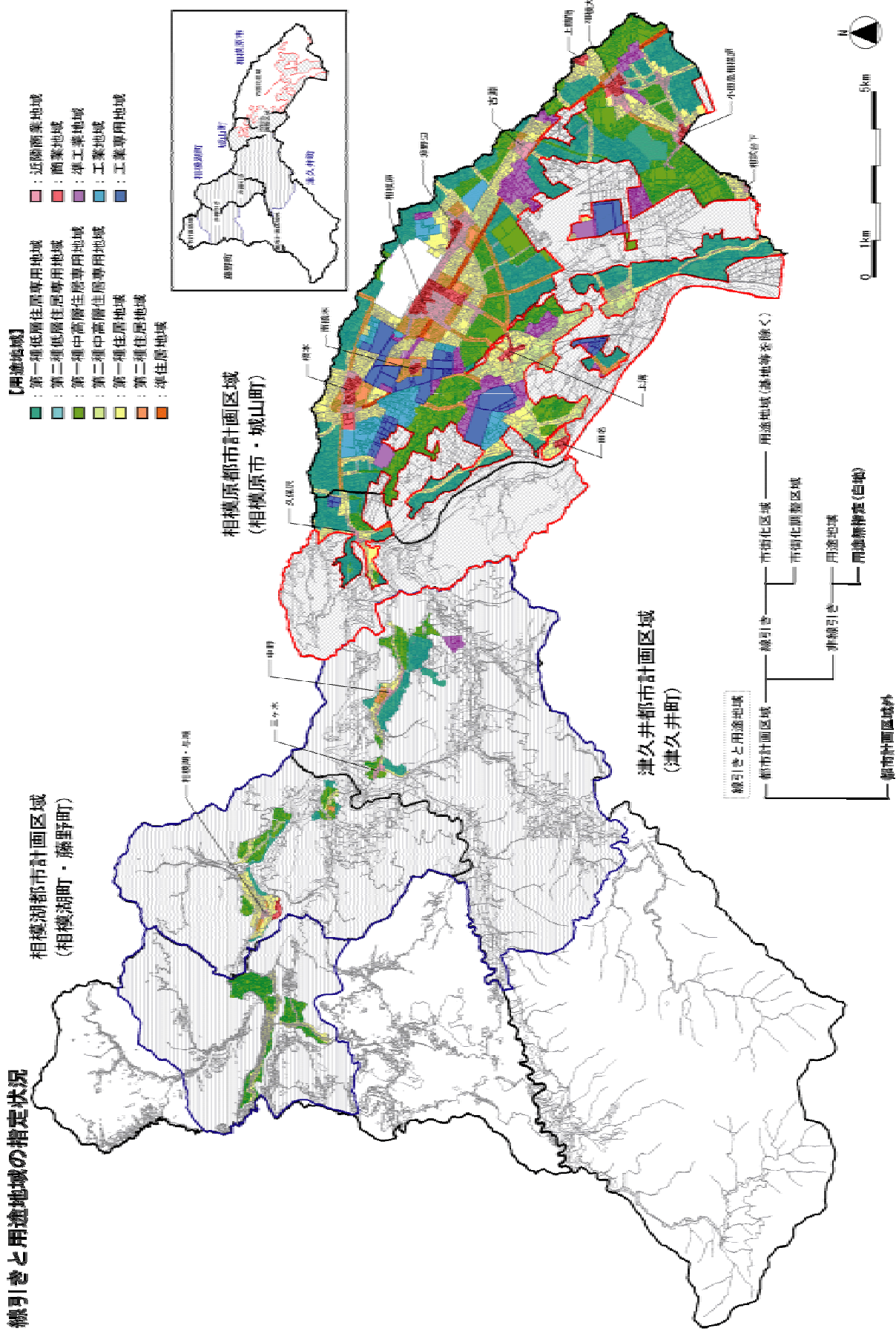
(相模原市の面積は行政界変更に伴い修正しています)

## 用途地域の指定状況：単位（ha）

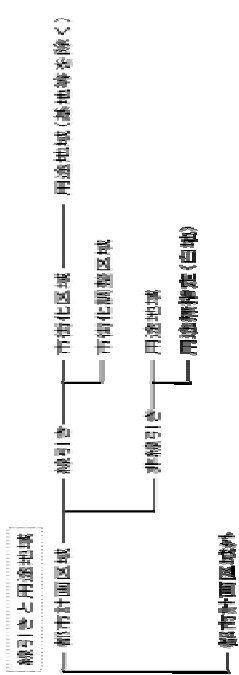
区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合 計	神奈川県
第1種低層住居専用地域	1,544.0 (24.7%)	138.0 (51.2%)	129.0 (43.7%)	33.0 (14.8%)	0.0	1,844.0 (25.4%)	29,246.6 (30.5%)
第2種低層住居専用地域	12.0 (0.2%)	6.0 (2.2%)	0.0	0.0	0.0	18.0 (0.2%)	764.5 (0.8%)
第1種中高層住居専用地域	1,254.0 (20.1%)	30.0 (11.1%)	76.0 (25.8%)	78.0 (35.0%)	137.0 (63.7%)	1,575.0 (21.7%)	15,226.0 (15.9%)
第2種中高層住居専用地域	294.0 (4.7%)	5.9 (2.2%)	0.0	8.9 (4.0%)	0.0	308.8 (4.3%)	2,917.2 (3.0%)
第1種住居地域	1,086.0 (17.4%)	43.0 (15.9%)	39.0 (13.2%)	82.0 (36.7%)	78.0 (36.3%)	1,328.0 (18.3%)	16,528.0 (17.3%)
第2種住居地域	396.0 (6.3%)	26.0 (9.6%)	10.0 (3.4%)	8.2 (3.7%)	0.0	440.2 (6.1%)	3,054.6 (3.2%)
準住居地域	77.0 (1.2%)	4.2 (1.6%)	0.0	0.0	0.0	81.2 (1.1%)	2,570.3 (2.7%)
近隣商業地域	263.0 (4.2%)	7.4 (2.8%)	21.0 (7.1%)	5.0 (2.2%)	0.0	296.4 (4.1%)	3,777.0 (3.9%)
商業地域	181.0 (2.9%)	0.0	0.0	8.0 (3.6%)	0.0	189.0 (2.6%)	3,940.9 (4.1%)
準工業地域	424.0 (6.8%)	0.0	20.0 (6.8%)	0.0	0.0	444.0 (6.1%)	6,177.0 (6.5%)
工業地域	301.0 (4.8%)	0.0	0.0	0.0	0.0	301.0 (4.2%)	4,885.0 (5.1%)
工業専用地域	421.0 (6.7%)	9.2 (3.4%)	0.0	0.0	0.0	430.2 (5.9%)	6,697.3 (7.0%)
合 計	6,253.0 (100.0%)	269.7 (100.0%)	295.0 (100.0%)	223.1 (100.0%)	215.0 (100.0%)	7,255.8 (100.0%)	95,784.4 (100.0%)

資料：神奈川県都市整備統計年報2004  
(相模原市の面積は行政界変更に伴い修正しています)

線引きと用途地域の指定状況



- 【用途地域】**
- : 近隣商業地域
  - : 商業地域
  - : 準工業地域
  - : 工業地域
  - : 工業専用地域
  - : 第一種低層住居専用地域
  - : 第二種低層住居専用地域
  - : 第一種中高層住居専用地域
  - : 第二種中高層住居専用地域
  - : 第一種住居地域
  - : 第二種住居地域
  - : 準住居地域





## 農業地域

本地域における農業振興地域の総面積に占める割合は 20.9%で、県の 21.1%より若干小さくなっています。

また、農用地区域は 2.4%で、県の 4.8%より小さくなっています。

農業振興地域：単位（ha）

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合 計	神奈川県
農業振興地域	731 (8.1%)	615 (30.9%)	2,000 (16.4%)	719 (22.8%)	2,822 (43.5%)	6,887 (20.9%)	50,893 (21.1%)
農用地区域	321 (3.6%)	74 (3.7%)	217 (1.8%)	64 (2.0%)	119 (1.8%)	795 (2.4%)	11,497 (4.8%)

（カッコ内の数字は県市町ごとの面積に対する割合）

資料：神奈川県土地統計資料集（平成17年3月）

## 森林地域

本地域の森林地域としては、国有林、民有林、保安林があります。民有林は地域森林計画対象民有林と対象外民有林があり、保安林は国有林と地域森林計画対象民有林に重複して指定されることがあります。

国有林と民有林を足し合わせた面積は 18,982ha で、総面積の 57.7%を占めています。これは、県の 39.4%と比べて大きい割合となっています。

また、保安林の指定を受けている地域の面積は、13,277ha(40.4%)であり、県の 21.2%より割合が大きくなっています。

森林地域：単位（ha）

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合 計	神奈川県
国有林 + 民有林	426 (4.7%)	937 (47.1%)	10,061 (82.4%)	2,387 (75.6%)	5,171 (79.7%)	18,982 (57.7%)	95,276 (39.4%)
国有林	35 (0.4%)	132 (6.6%)	704 (5.8%)	88 (2.8%)	54 (0.8%)	1,013 (3.1%)	10,861 (4.5%)
民有林	391 (4.3%)	805 (40.5%)	9,357 (76.7%)	2,299 (72.8%)	5,117 (78.8%)	17,969 (54.6%)	84,415 (34.9%)
地域森林計画 対象民有林	307 (3.4%)	802 (40.3%)	9,316 (76.3%)	2,262 (71.6%)	5,082 (78.3%)	17,769 (54.0%)	80,052 (33.1%)
保安林	2 (0.0%)	220 (11.1%)	9,769 (80.0%)	1,379 (43.7%)	1,907 (29.4%)	13,277 (40.4%)	51,191 (21.2%)

（カッコ内の数字は県市町ごとの全面積に対する割合）

資料：神奈川県土地統計資料集（平成17年3月）

## 自然公園地域

本地域には、南西部に広がる丹沢大山国定公園があります。国定公園においては、土地利用の規制の段階に応じて第1種から3種までの特別地域と特別保護地区が設定され、運用されています。

県立自然公園は、県立丹沢大山自然公園、県立陣馬相模湖自然公園の2公園があり、土地利用の厳しい特別地域に設定されている区域があります。

自然公園地域：単位（ha）

区 分	相模	城山町	津	相模湖町	藤野町	合 計	神奈川県
国立公園	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10,375.0 (4.3%)
国定公園	0.0	0.0	6,725.0 (55.1%)	0.0	0.0	6,725.0 (20.5%)	27,572.0 (11.4%)
特別保護地区	0.0	0.0	375.0 (3.1%)	0.0	0.0	375.0 (1.1%)	1,867.0 (0.8%)
特別地域	0.0	0.0	6,350.0 (52.0%)	0.0	0.0	6,350.0 (19.3%)	25,705.0 (10.6%)
県立自然公園	0.0	0.0	411.0 (3.4%)	2,033.0 (64.4%)	1,752.0 (27.0%)	4,196.0 (12.8%)	17,210.0 (7.1%)
特別地域	0.0	0.0	411.0 (3.4%)	1,426.0 (45.1%)	1,322.0 (20.4%)	3,159.0 (9.6%)	12,672.0 (5.2%)
普通地域	0.0	0.0	0.0	607.0 (19.2%)	430.0 (6.6%)	1,037.0 (3.2%)	4,538.0 (1.9%)

（カッコ内の数字は県市町ごとの面積に対する割合）

資料：神奈川県土地統計資料集（平成17年3月）

## 自然保全地域

本地域には、城山町に3箇所（城山、城山湖、小倉山）、津久井町に5箇所（茨菰山、志田山、仙洞寺山、城山、青野原）、相模湖町に1箇所（寸沢嵐）、藤野町に11箇所（日連、名倉、小淵、吉野、沢井、佐野川、藤野上、牧馬、綱子、奥牧野、石砂山）の自然環境保全地域があります。このうち石砂山は、土地利用制限がより厳しい特別地区に指定されています。

自然保全地域：単位（ha）

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合 計	神奈川県
自然環境保全地域	0.0	226.2 (11.4%)	501.5 (4.1%)	12.8 (0.4%)	600.0 (9.2%)	1,340.5 (4.1%)	11,215.9 (4.6%)
特別地区	0.0	0.0	0.0	0.0	16.9 (0.3%)	16.9 (0.1%)	16.9 (0.0%)

（カッコ内の数字は県市町ごとの面積に対する割合）

資料：神奈川県土地統計資料集（平成17年3月）

## (2) 土地利用現況

本地域の土地利用の現況を見ると、山林が半分以上を占めており、その割合は57.4%になります。

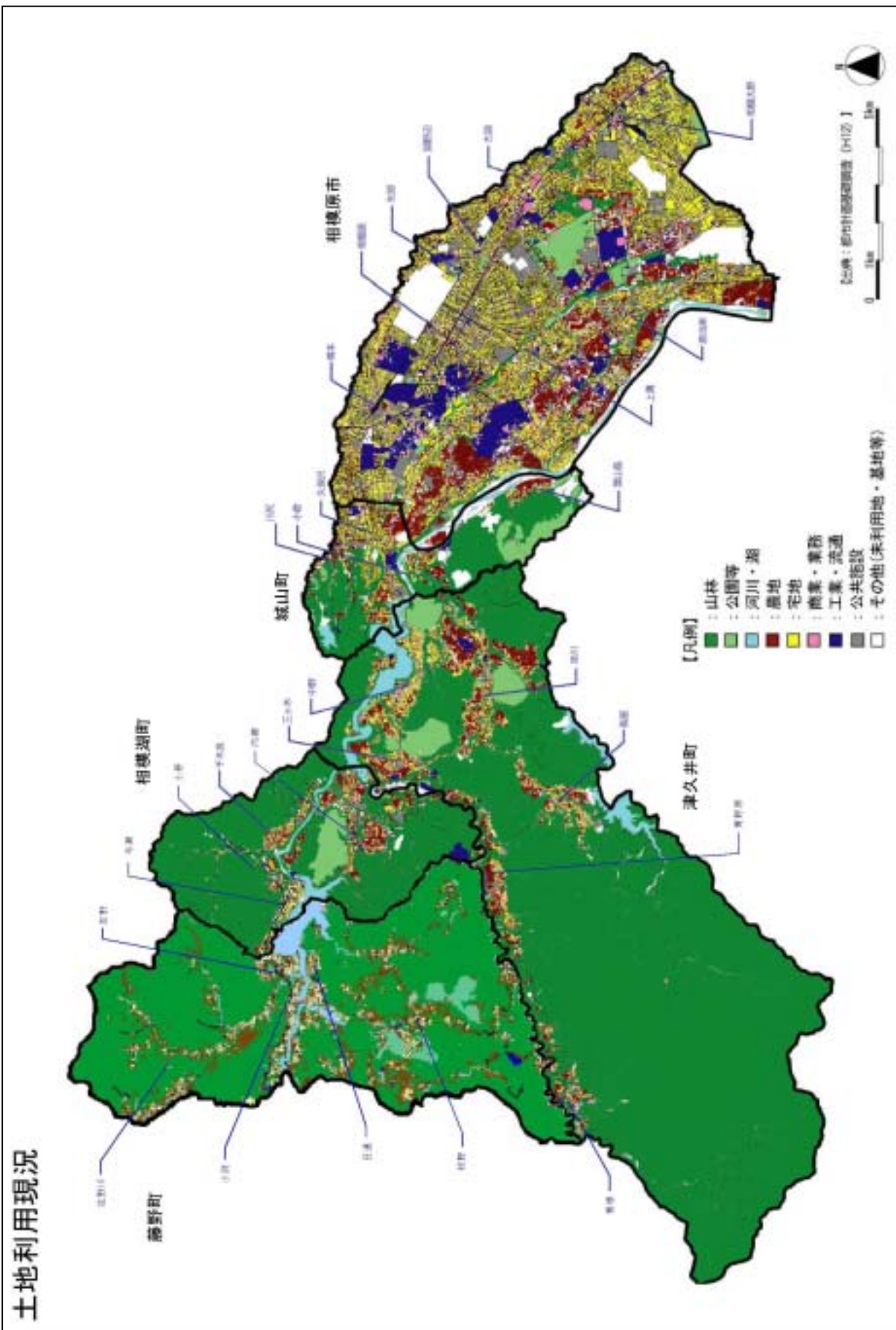
相模川を境に地形が大きく異なるため、農地、商業・業務、工業・流通、公共施設、交用地などは、西部に比べて東部での面積割合が大きくなっています。

土地利用現況：単位（ha）

区 分	相模原市	城山町	津久井町	相模湖町	藤野町	合 計	神奈川県
山 林	353.4 (3.9%)	897.2 (45.1%)	10,040.8 (82.3%)	2,332.6 (73.8%)	5,241.9 (80.8%)	18,865.9 (57.4%)	94,913.9 (39.3%)
河川・湖	116.8 (1.3%)	89.4 (4.5%)	420.4 (3.4%)	117.5 (3.7%)	221.0 (3.4%)	965.1 (2.9%)	5,131.5 (2.1%)
公 園 等	369.2 (4.1%)	189.8 (9.5%)	301.9 (2.5%)	11.5 (0.4%)	152.4 (2.3%)	1,024.8 (3.1%)	8,353.1 (3.5%)
農 地	1,216.9 (13.4%)	195.9 (9.9%)	609.2 (5.0%)	189.5 (6.0%)	367.4 (5.7%)	2,578.9 (7.9%)	27,645.3 (11.5%)
宅 地	2,790.7 (30.9%)	190.8 (9.6%)	349.9 (2.9%)	115.6 (3.7%)	144.5 (2.2%)	3,591.5 (10.9%)	41,816.1 (17.3%)
商業・業務	378.1 (4.2%)	18.7 (0.9%)	31.9 (0.2%)	151.6 (4.8%)	23.7 (0.4%)	604.0 (1.8%)	5,817.0 (2.4%)
工業・流通	866.2 (9.6%)	34.8 (1.8%)	59.9 (0.5%)	33.2 (1.1%)	31.7 (0.5%)	1,025.8 (3.1%)	12,900.4 (5.4%)
公共施設	567.6 (6.3%)	28.2 (1.4%)	60.5 (0.5%)	39.1 (1.2%)	33.4 (0.5%)	728.8 (2.2%)	7,666.9 (3.2%)
交 通	997.5 (11.0%)	84.4 (4.2%)	143.1 (1.2%)	71.9 (2.3%)	103.8 (1.6%)	1,400.7 (4.3%)	18,680.3 (7.7%)
そ の 他	1,383.6 (15.3%)	260.8 (13.1%)	186.4 (1.5%)	96.5 (3.0%)	171.2 (2.6%)	2,098.5 (6.4%)	18,449.0 (7.6%)
合 計	9,040.0 (100.0%)	1,990.0 (100.0%)	12,204.0 (100.0%)	3,159.0 (100.0%)	6,491.0 (100.0%)	32,884.0 (100.0%)	241,373.5 (100.0%)

資料：都市計画基礎調査（H12）

（相模原市の面積は行政界変更に伴い修正しています）



## 6 道路・交通

### (1) 道路

相模原地域における道路交通網の骨格は国道16号が中心となっており、これを介して、広域交通を担う中央自動車道（八王子インターチェンジ）と東名高速道路（横浜町田インターチェンジ）に連携しています。また、津久井地域では八王子方面や大月方面とのアクセス道路となる国道20号、国道413号や厚木市方面へのアクセス道路となる国道412号が走っており、国道20号は相模湖インターチェンジで中央自動車道と連結しています。

このうち、国道413号は相模原地域と津久井地域を結ぶ交通軸になりますが、日常的な混雑が問題となっているため、新たな交通軸として津久井広域道路の整備が計画され進められているほか、城山町を縦断するさがみ縦貫道路が計画され、骨格的な交通を担うこととなります。

本地域を通過する国道、主な県道

種 別	路 線 名
国道（高速自動車道）	中央自動車道
国道（一般国道）	一般国道16号
	一般国道20号
	一般国道129号
	一般国道412号
国道（一般国道）	一般国道413号
	県道35号（四日市場上野原線）
	県道46号（相模原茅ヶ崎線）
	県道48号（鍛冶谷相模原線）
	県道51号（町田厚木線）
	県道52号（相模原町田線）
	県道54号（相模原愛川線）
	県道57号（相模原大蔵町線）
	県道63号（相模原大磯線）
	県道64号（伊勢原津久井線）
県道65号（厚木愛川津久井線）	
県道76号（山北藤野線）	

資料：市町村合併に関する調査研究部会中間報告（平成15年）

## (2) 鉄道

本地域の鉄道路線としては、JR 中央本線、JR 横浜線、JR 相模線、小田急小田原線、小田急江ノ島線及び京王相模原線があり、特に橋本駅と相模大野駅は都心と直結するターミナル駅となっていることから、多くの人に利用されています。

鉄道路線と駅

	路線名	駅名
1	JR東日本中央本線	相模湖、藤野
2	JR東日本横浜線	橋本、相模原、矢部、淵野辺、古淵
3	JR東日本相模線	橋本、南橋本、上溝、番田、原当麻、下溝、相武台下
4	京王電鉄相模原線	橋本
5	小田急電鉄小田原線	相模大野、小田急相模原
6	小田急電鉄江ノ島線	相模大野、東林間

平成 16 年度の 1 日あたりの駅別乗車人員上位 5 駅

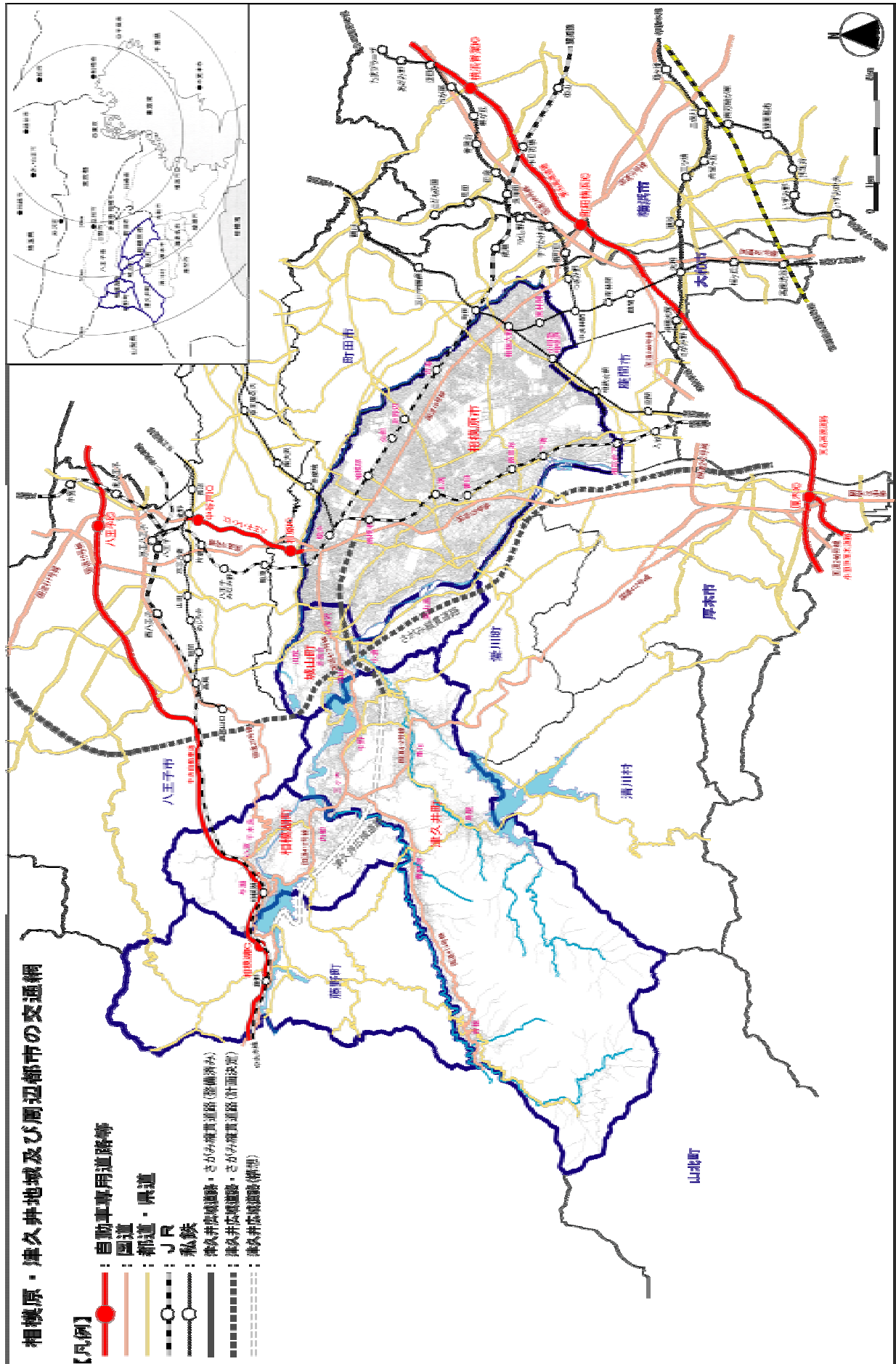
	駅名	路線名	1日乗車人員
1	橋本	計	94,364
		JR 東日本横浜線、相模線	53,550
		京王電鉄相模原線	40,814
2	相模大野	小田急電鉄江ノ島線 小田急電鉄小田原線	55,606
3	淵野辺	JR 東日本横浜線	35,876
4	小田急相模原	小田急電鉄小田原線	28,002
5	相模原	JR 東日本横浜線	26,668

相模原市都市交通計画課調べ

## (3) バス

本地域には、主に神奈川中央交通(株)によりバスが運行されており、橋本駅、相模原駅、淵野辺駅、相模大野駅などの各駅や、三ヶ木を起点とした路線が縦横に走っています。(神奈川中央交通(株)(グループ会社を含む); 114 系統、京王バス南(株); 3 系統、富士急山梨バス(株); 2 系統)

また、津久井町及び藤野町では、民間バス事業者が撤退した路線や運行していなかった地域に町営バスを走らせるなど、住民の日常交通手段の確保を図っています。(津久井町営; 1 系統、藤野町営; 3 系統)



## 7 産業

## (1) 産業別就業状況

産業別就業者人口比を平成7年と平成12年で比較すると、第2次産業の就業人口の割合が減少し、第3次産業の就業人口の割合が増加しています。

産業別就業人口

区 分	国勢調査 産業別人口						平成12年国勢調査(人)		
	平成7年			平成12年			常住人口	昼間人口	昼夜間人口比
	第1次	第2次	第3次	第1次	第2次	第3次			
相模原市	2,146 (0.7%)	104,719 (35.2%)	190,372 (64.1%)	1,754 (0.6%)	94,908 (31.9%)	201,267 (67.5%)	605,540	525,258	86.7%
城山町	203 (1.7%)	4,482 (38.4%)	6,988 (59.9%)	189 (1.6%)	3,809 (32.5%)	7,708 (65.9%)	23,036	16,940	73.5%
津久井町	343 (2.2%)	6,695 (43.4%)	8,408 (54.4%)	230 (1.5%)	5,934 (38.5%)	9,252 (60.0%)	30,331	23,627	77.9%
相模湖町	105 (2.0%)	1,702 (31.9%)	3,533 (66.1%)	86 (1.7%)	1,513 (29.9%)	3,463 (68.4%)	10,894	8,644	79.3%
藤野町	100 (1.8%)	2,167 (39.9%)	3,164 (58.3%)	130 (2.4%)	1,969 (36.9%)	3,238 (60.7%)	11,299	9,004	79.7%
合 計	2,897 (0.9%)	119,765 (35.7%)	212,465 (63.4%)	2,389 (0.7%)	108,133 (32.2%)	224,928 (67.1%)	681,100	583,473	85.7%

(分類不能は含まない)  
資料：国勢調査

## (2) 農業の実態

農業産出額は、平成14年から15年にかけて減少傾向にあります。

農家戸数及び農業産出額

区 分	平成12年農家戸数(戸)			農業産出額(1000万円)		
	農家戸数	うち専業	専業率	平成14年	平成15年	H15/H14
相模原市	1,592	155	9.7%	391	362	-7.4%
城山町	298	16	5.4%	31	28	-9.7%
津久井町	512	32	6.3%	48	48	0.0%
相模湖町	241	6	2.5%	14	14	0.0%
藤野町	373	17	4.6%	16	15	-6.2%
合 計	3,016	226	7.5%	500	467	-6.6%

資料：農業センサスからみた神奈川の農業、生産農業所得統計



## (3) 工業の実態

製造業事業所数、製造業従業者数、製造品出荷額等とも減少傾向にあります。

## 事業所数、従業者数、製造品出荷額等の現況

区 分	製造業事業所数 (事業所)		製造業従業者数 (人)		製造品出荷額等 (100万円)		H15 / H14		
	平成14年	平成15年	平成14年	平成15年	平成14年	平成15年	事業 所数	従業 員数	出荷額
相模原市	1,089	1,088	35,890	34,743	1,122,107	1,173,102	-0.1%	-3.2%	4.5%
城山町	28	29	1,453	1,504	25,645	29,289	3.6%	3.5%	14.2%
津久井町	88	99	1,683	1,658	39,681	35,870	12.5%	-1.5%	-9.6%
相模湖町	30	29	488	494	8,762	9,428	-3.3%	1.2%	7.6%
藤野町	40	55	664	601	14,818	10,491	37.5%	-9.5%	-29.2%
合 計	1,275	1,300	40,178	39,000	1,211,013	1,258,180	2.0%	-2.9%	3.9%

資料：工業統計調査

## (4) 商業の実態

事業所数、従業者数、年間販売額とも減少傾向にあります。

## 事業所数、従業者数、年間販売額の現況

区 分	事業所数(店)		従業者数(人)		年間販売額(100万円)		H16 / H14		
	平成14年	平成16年	平成14年	平成16年	平成14年	平成16年	商店数	従業 者数	販売額
相模原市	5,203	5,105	44,844	43,556	1,205,059	1,240,704	-1.9%	-2.9%	3.0%
城山町	163	168	1,510	1,596	24,190	26,653	3.1%	5.7%	10.2%
津久井町	224	229	1,263	1,370	22,593	21,350	2.2%	8.5%	-5.5%
相模湖町	114	101	535	438	6,327	5,320	-11.4%	-18.1%	-15.9%
藤野町	86	84	327	359	8,759	9,403	-2.3%	9.8%	7.3%
合 計	5,790	5,687	48,479	47,319	1,266,928	1,303,430	-1.8%	-2.4%	2.9%

資料：商業統計調査